

令和7年度進行管理・評価シート
高山市 歴史的風致維持向上計画（令和7年3月21日認定）

□進捗評価シート(様式1)

①組織体制(様式1-1)		
1 計画の推進体制	1
②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)		
1 景観計画との連携(景観形成基準の見直し)	2
③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)		
1 歴史的町並保存事業	3
2 景観重要建造物等修景事業	4
3 伝統構法木造建築物耐震化事業	5
4 指定文化財保存活用事業	6
5 無電柱化等事業	7
6 町並み景観保全事業	8
7 屋台保存事業	9
8 伝統行事・伝統技術伝承事業	10
9 郷土の歴史・文化の語り部育成事業	11
10 伝統行事担い手支援事業	12
11 文化遺産・地域資源活用調査事業	13
12 伝統的大工技術等継承事業	14
13 町並み歩行空間創出事業	15
14 城山公園等整備事業	16
15 日本遺産活用整備事業	17
16 まちの博物館外国語対応事業	18
④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)		
1 文化財の指定等	19
2 文化財の保護、周辺環境の保全等	20
3 文化財に関する普及・啓発の取組等	21
⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)		
1 新聞情報	22
⑥その他(効果等)(様式1-6)		
1 観光客の回遊性の向上	23
□法定協議会等におけるコメントシート(様式2)	24

評価軸①-1
組織体制

	評価対象年度	令和7年度
--	--------	-------

項目	現在の状況
計画の推進体制	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容
 計画の推進にあたっては、建築住宅課と文化財課が事務局を務め、各事業の実施については、各事業担当課と連携調整を行うとともに、文化財所有者や周辺住民、関係団体や事業者等と協議・調整を行うものとする。また、必要に応じて国や岐阜県、各審議会と協議を行い、助言や支援を得るとともに、法定協議会である高山市歴史的風致維持向上計画協議会において、計画の推進や計画変更、円滑な事業の実施に向けた協議を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

建築住宅課と文化財課の連携の下、計画の推進を図った。各事業については、事業所管課を中心に関係課との連携を図るとともに、地元住民や関係団体等と必要な意見交換を行い、事業の推進を図った。計画の進行管理・評価においては、第三期計画の最初となる令和7年度進捗評価を実施し、その評価結果について法定協議会である「高山市歴史的風致維持向上計画協議会」から意見聴取を行った。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
----------------	--------------------------

<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	
--	--

状況を示す写真や資料等

■ 法定協議会への協議状況

○ 高山市歴史的風致維持向上計画協議会(書面開催)
 意見聴取期間 令和8年4月27日～5月15日
 (議題)
 ・令和7年度進行管理・評価について

→各委員からの意見に対する回答や今後の対応については、全委員に書面にて報告



■ 関連審議会への協議状況

○ 高山市文化財審議会
 開催日 令和8年3月19日
 開催場所 高山市役所
 (議題)
 ・高山市指定有形文化財の指定について
 ・高山市文化財保存活用地域計画の認定について
 ・松倉城跡・広瀬城跡について
 ・国登録有形文化財(建造物)の指定について
 ・令和8年度の文化財関係新規・拡充事業について

評価軸③-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和7年度
項目		現在の状況	
歴史的町並保存事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 昭和54年度～令和16年度

支援事業名 重要伝統的建造物群保存地区保存事業

計画に記載している内容 重要伝統的建造物群保存地区内の建造物の修理及び外観の修景、防火対策に要する経費の一部を助成することにより、歴史的な建造物の保存を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

重要伝統的建造物群保存地区内の建造物の計画的な修理・修景を実施することにより、建造物の適切な保存や町並みの景観保全を図ることができた。また、防火帯としての土蔵を整備し、地区内における防火帯維持を図ることができた。

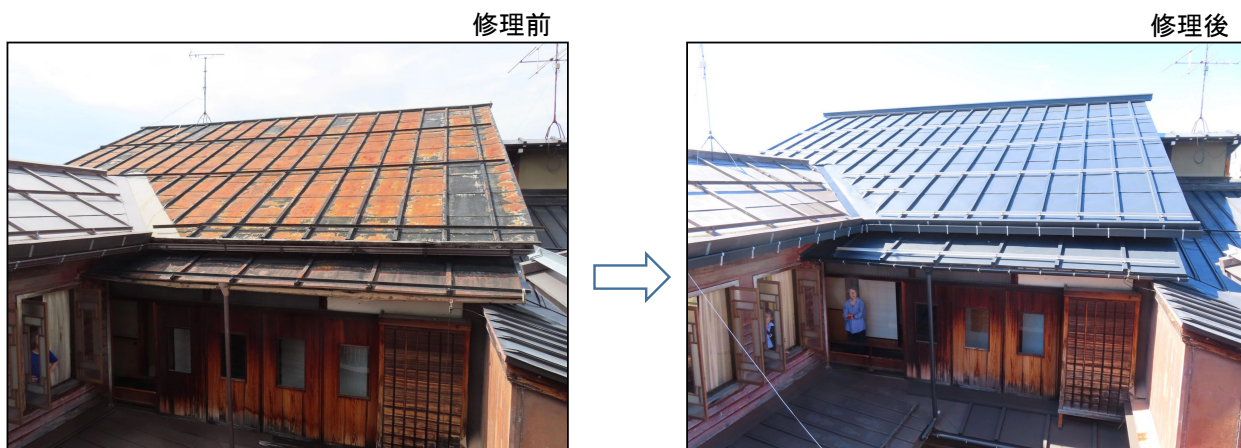
令和7年度実績

- ・伝統的建造物群保存地区保存修理事業 修理補助:3件(修理:2件、修景:1件)
- ・伝統的建造物群保存地区防災対策事業 整備補助:4件

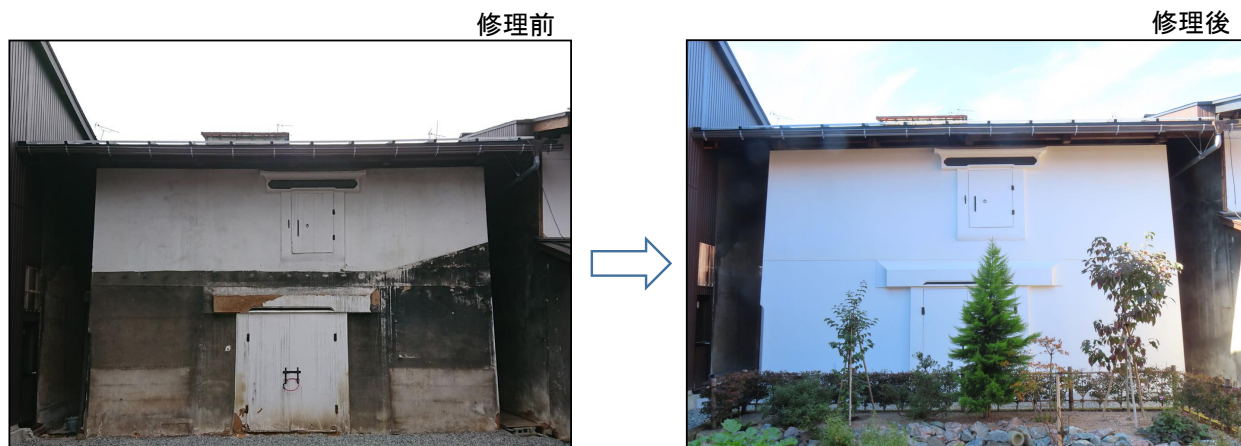
進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない



状況を示す写真や資料等



伝統的建造物群保存地区保存修理事業により修理(屋根葺替)が行われた物件




伝統的建造物群保存地区防災対策事業により整備(外壁修理)が行われた物件

評価軸③-1 歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項		評価対象年度	令和7年度
項目		現在の状況	
景観重要建造物等修景事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成26年度～令和16年度		
支援事業名	社会資本整備総合交付金〈街なみ環境整備事業〉		
計画に記載している内容	景観重要建造物の外観を維持するために必要な修理や修景に要する経費の一部を助成することにより、まちの景観形成の核となる建造物の保全を図る。 市街地景観保存区域内において行われる建築物の新築・修理等の行為が、伝統的な意匠を基本とした一定の基準を満たす場合に、当該行為に要する経費の一部を助成し、町並み景観の保全を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
景観重要建造物の外観を維持するために必要な修理、市街地景観保存区域内の建造物における一定の基準を満たす建築行為に対して助成を行った。歴史ある建造物の維持保全にかかる所有者の経済的負担を軽減するとともに、建造物の形態や意匠等の無秩序な変更を防ぐことにより、周辺の景観と調和した趣のある町並みが保全された。 <input type="checkbox"/> 令和7年度実績 ・景観重要建造物修景事業補助 重点区域内:0件(R6:0件) ・市街地景観保存区域建造物修景事業補助 重点区域内:2件(R6:6件)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
修景前	→		修景後
			
外装塗装(漆喰)、格子の新設等の修景工事が行われた物件			

評価軸③-1 歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項		評価対象年度	令和7年度
項目		現在の状況	
伝統構法木造建築物耐震化事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成26年度～令和16年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	建築基準法施行前に建築された木造建築物は、現在の建築基準法に基づく耐震診断を行った場合、耐震性が非常に低いという結果が出てしまうが、反面、柔らかさや粘り強さがあるという特徴があることから、その特徴に応じた耐震診断や耐震改修工事を行うための「高山市伝統構法木造建築物耐震化マニュアル」を平成25年度に作成した。このマニュアルに基づいて行われる、伝統的な木造建築物の耐震診断や耐震改修工事に対して補助金を交付する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
「高山市伝統構法木造建築耐震化マニュアル」に基づいて行われた、伝統的な木造建築物の耐震診断や耐震改修工事に対して、補助を行った。耐震性の向上により、継続的に居住できる環境と伝統的な建造物の維持が図られた。5月、建築士事務所協会と連携して、耐震相談士を対象とした研修会を開催した。			
□ 令和7年度実績 ・伝統構法木造建築物耐震化事業補助 耐震診断5件(R6:5件) 耐震改修:2件(R6:3件)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
			
復元力の大きい耐力板壁による補強		耐震相談士を対象とした研修会の開催状況	
現行の建築基準により耐震改修を行うと、歴史的な建築物の形態・意匠を維持できないことが多い 左の写真は、耐震補強金物を用いず板壁の耐力壁を設けることで、形態・意匠の維持と柔らかくて粘り強い伝統構法木造建築物の特性に応じた耐震改修を行った箇所			

評価軸③-1 歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項		評価対象年度	令和7年度
項目		現在の状況	
指定文化財保存活用事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	令和7年度～令和16年度		
支援事業名	市単独事業ほか		
計画に記載している内容	高山市には、国・県・市の指定を合わせて955件の文化財が所在している。これらのうち、修理・整備の必要なものについて、所有者などが行う修理に対して支援する。また、日本遺産構成文化財など重点区域内に所在する文化財については、重点的、計画的に修理を進める。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
修理等が必要な県・市指定の文化財4件について補助を行うことで、適切な保全を図ることができた。県指定重要文化財「桜の襖絵(千光寺)」において修理(剥落止め、レプリカ制作)を実施したほか、県指定重要無形民俗文化財「国府町金蔵獅子(金桶金蔵獅子)」において記録作成を実施したことにより、適切な保存継承を図ることができた。 また、市指定史跡「東照宮の歴史遺構」において石垣等の整備を実施したことにより、適切な保護を図ることができた。			
<input type="checkbox"/> 令和7年度実績 ・指定文化財の保存修理事業:4件 県指定:3件(旧中藪家、桜の襖絵、国府町金蔵獅子) 市指定:1件(東照宮の歴史遺構)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
修理前		修理後	
			
桜の襖絵修理(剥落止め)			
整備前		整備後	
			
東照宮の歴史遺構補修(石垣等整備)			

評価軸③-1 歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項		評価対象年度	令和7年度
項目		現在の状況	
無電柱化等事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	令和3年度～令和9年度		
支援事業名	無電柱化推進事業費補助		
計画に記載している内容	三町伝統的建造物群保存地区から飛騨高山まちの博物館につながる通りにおいて、伝統的な町並み景観の保全等を図るため、景観を阻害している電線等を地中化するとともに、車道や歩道等について景観に配慮した整備を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
令和6年度で市道上一之町花里線の無電柱化工事がすべて完了した。 これにより三町伝統的建造物群保存地区や周辺の景観重点区域における良好な景観の形成が図られた。 <input type="checkbox"/> 令和7年度実績 ・次期整備路線の検討を行った。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
整備後	整備後の夜間景観(三町伝統的建造物群保存)		
			
市道上一之町花里線(三町伝統的建造物群保存地区)			

評価軸③-1 歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項		評価対象年度	令和7年度
項目		現在の状況	
町並み景観保全事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成21年度～令和16年度		
支援事業名	社会資本整備総合交付金〈街なみ環境整備事業〉		
計画に記載している内容	良好な町並み景観の創出を促進するため、景観に配慮した形態意匠の看板を設置する場合や、板塀や生け垣を設置する場合等に補助金を交付する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
高山の景観にふさわしい看板の設置やふさわしくない看板の撤去、生垣や塀等の設置に対し助成を行った。広報紙やホームページ等、様々な媒体を通じ助成制度の周知に努め、町並みにおける良好な景観の形成に寄与した。 <input type="checkbox"/> 令和7年度実績 ・看板設置及び撤去補助 重点区域内:4件 重点区域外:0件(R6:計3件) ・生垣設置補助 重点区域内:0件 重点区域外:0件(R6:計0件) ・塀等設置補助 重点区域内:1件 重点区域外:0件(R6:計2件)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
整備前			整備後
			
老朽化した看板を景観にふさわしい看板にリノベーションし設置した			

評価軸③-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和7年度
項目		現在の状況	
屋台保存事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 屋台修理:昭和39年度～令和16年度
保存活動への助成:平成2年度～令和16年度

支援事業名 屋台修理:重要有形民俗文化財修理、屋台蔵修理
保存活動への助成:市単独事業

計画に記載している内容 非常に価値の高い意匠を持つ高山祭の屋台の保存管理については、専門的な技術による管理やからくりの伝承等が不可欠であるとともに、屋台の修理には多額の資金が必要である。屋台修理・屋台蔵修理を計画的に実施するとともに、屋台の保存に関わる団体の活動に対して助成を行い、屋台の保存を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

高山祭屋台の保存修理事業を行い、将来への屋台の継承に寄与した。
令和7年度実績
 ・恵比須台、行神台、神馬台、五台山、崑崗台、鳩峯車、石橋台、金鳳台修理
 高山祭屋台の保存防災施設である屋台蔵の修理を実施し、防災・防犯の機能を回復させた。
令和7年度実績
 ・宝珠台屋台蔵修理
 高山祭の屋台を保存する活動を行う団体や修理技術者の育成事業に対して助成を行ったことにより、屋台の保存や修理技術の継承に寄与した。
令和7年度実績
 ・高山祭屋台管理費補助金:1件(高山屋台保存会)
 ・からくり屋台管理技術伝承保存補助金:1件(高山屋台保存会)
 ・高山祭屋台保存技術伝承保存補助金:1件(高山・祭屋台保存技術協同組合)
 ・高山祭屋台保存技術研修事業費補助金及び技術修得補助金:4件

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等



恵比須台 繊維修理



行神台 構造修理

評価軸③-1 歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項		評価対象年度	令和7年度
項目		現在の状況	
伝統行事・伝統技術伝承事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成2年度～令和16年度		
支援事業名	市単独事業、地域文化財総合活用推進事業		
計画に記載している内容	市内各地で行われている民俗芸能、祭礼活動、風俗慣習などの伝統行事や伝統技術は、そこに住む人々の教養や娯楽、環境などから生まれた特有の文化であり、地域の誇りである。しかし、近年、後継者の不足や保存会活動費の不足、用具の劣化などで伝承していくことが困難となっている。これらの保存活動に対して助成を行う。また、保存会やまちづくり協議会などの民間団体と連携し、必要に応じて学識経験者等の指導、助言を得ながら、記録映像の作成やイベントの開催などを実施し、後世への継承を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
地域の伝承芸能及び伝統技術の保存団体に対する活動助成や関係者と情報共有を行ったことにより、伝承芸能及び伝統技術の維持・継承に寄与し、地域の誇りの醸成に貢献した。 <input type="checkbox"/> 令和7年度実績 ・伝承芸能保存団体補助金: 18件 ・無形文化財・無形民俗文化財保存団体補助金: 5件			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
			
伝承記録作成の様子 (国府町金蔵獅子(金桶金蔵獅子))		二十四日市での小屋名しょうけ販売の様子 (令和8年1月24日)	

評価軸③-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和7年度
項目		現在の状況	
郷土の歴史・文化の語り部育成事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成30年度～令和16年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 多くの市民が郷土の歴史・文化を語るができるよう、郷土の歴史・文化の研究や歴史文化資産源の保存・活用に取り組む方等が講師となり、市民による「語り部」を育成することで、後世への継承を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

高山の歴史・文化・自然・ガイド技術等について学ぶ、語り部養成講座を開催した。参加した市民、ガイドボランティア、観光業者等の方々は、語り部としての活動に役立つ知識や技術を修得することができ、語り部としての資質の向上に寄与した。

令和7年度実績

- ・語り部養成講座開催回数:4回(全4講座)
- ・参加延べ人数:162人

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



第4回語り部養成講座「田中家文書の研究－羽根村新田開発と焰硝上納－」
(令和8年2月7日)

評価軸③-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和7年度
項目		現在の状況	
伝統行事担い手支援事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成30年度～令和16年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	祭りなどの伝統行事の継続に苦慮している地域において人材の確保を図るため、伝統行事の継承者や関係団体などと検討のための委員会を組織し、具体的な支援策などの検討を進める。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
子供伝承芸能保存連合会への補助金の交付額を増額したことで、補助金が同保存会の主催する飛驒の里まつりや構成団体の活動支援に積極的に活用され、こどもが地域の伝統行事に参加する機会の確保に繋がった。 高山祭の屋台行事については、國學院大學観光まちづくり学部が高山市大学連携センターの研究助成を活用し「関係人口を活用した祭礼継承の研究」として、各屋台具へアンケートや聞き取り調査を行った。令和8年3月15日には調査結果の報告会も開催され、屋台組等、多くの関係者が参加し意見交換等が行われた。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等



飛驒の里まつりでの披露の様子
(令和7年10月25日)



國學院大學観光まちづくり学部による調査報告会
(令和8年3月15日)

評価軸③-1 歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項		評価対象年度	令和7年度
項目		現在の状況	
文化遺産・地域資源活用調査事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成30年度～令和16年度		
支援事業名	市単独事業ほか		
計画に記載している内容	高山市内には955件の指定等文化財が所在しているが、このほかにも数多くの地域資源が存在している。これらの地域資源などについて、現存する資料の把握や現地調査、聞き取りなどにより、その歴史的経緯や現状について全体的な調査を行い、文化遺産として保存・復刻・活用などを図る。 定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
市で寄付を受け、市有施設に保管されている民具資料について、資料の価値を調査し、整理活用の方向性を検討するため、民俗資料を専門とする大学教員・学生に委託するとともに、地域ボランティアの協力を得て整理を行った。 <input type="checkbox"/> 令和7年度実績 ・民具整理:1回実施、参加者16名、1,047点を整理(清掃、撮影、台帳作成) 市内の商家から寄付を受けた歴史資料について、市民ボランティアを中心に月2回整理作業を行った。 <input type="checkbox"/> 令和7年度実績 ・資料整理:22回実施(仮目録作成)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">民具資料整理(令和7年11月3日～11月5日)</p>			

評価軸③-1 歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項		評価対象年度	令和7年度
項目		現在の状況	
伝統的大工技術等継承事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	令和2年度～令和16年度		
支援事業名	景観改善推進事業		
計画に記載している内容	地域の伝統的な技法により行う建築物の修景等に係る経費の一部を助成することにより、地域の伝統的な技法の活用を促進し、伝統的な技法の継承と地場産業の振興、美しい景観と潤いのあるまちづくりを推進する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
地域の伝統的な技法の活用促進や継承等を図るため、伝統的な技法を用いて、周囲の景観と調和するよう配慮して行う建造物等の整備に対して助成を行った。			
<input type="checkbox"/> 令和7年度 ・伝統的大工技術等継承事業 重点区域内19件 重点区域外: 10件(R6: 計35件)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
修景前	→		修景後
			
伝統的な技法を用いて、周囲の景観と調和するように修景が行われた物件			

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項		評価対象年度	令和7年度
項目		現在の状況	
町並み歩行空間創出事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成29年度～令和16年度		
支援事業名	社会資本整備総合交付金〈街なみ環境整備事業〉		
計画に記載している内容	重要伝統的建造物群保存地区及びその周辺の通りにおいて、景観に配慮した舗装・側溝の整備による美装化などを行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
<input type="checkbox"/> 令和7年度実績 ・なし ※令和7年度については、当該地区内での計画・実績がなかった。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			

評価軸③-1 歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項		評価対象年度	令和7年度
項目		現在の状況	
城山公園等整備事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	令和7年度～令和11年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	高山城の当時の面影を感じることができる城山公園において、老朽化した施設の再整備等により、公園の魅力向上を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
<input type="checkbox"/> 令和7年度実績 ・なし ※令和7年度については、当該地区内での計画・実績がなかった。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			

評価軸③-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和7年度
項目		現在の状況	
日本遺産活用整備事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成28年度～令和16年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容
 平成28年度に認定された日本遺産「飛騨匠の技・こころ一木とともに、今に引き継ぐ1300年」について、普及・啓発としてこども向け冊子の配布などを行う。また、第二期計画で整備した徒歩・自転車・公共交通期間などによる周遊コース、周遊や普及のために作成した高山城VRなどのコンテンツや看板など設備の活用、拡充を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

日本遺産のストーリーの普及・啓発として、市内の小学生を対象としたパンフレットの作成・配布を行った。
令和7年度実績
 ・小学校への配布数: 19校、689名
 日本遺産の周遊コンテンツとして整備した日本遺産スタンプラリー、日本遺産フォトラリー、日本遺産サイクルラリーの運用を継続して行っている。
 高山市飛騨匠日本遺産推進協議会委員である飛騨高山観光コンベンション協会と連携し、観光案内所において日本遺産御周印帳の販売、御周印の押印販売を行った。
令和7年度実績(販売を開始した令和7年10月～令和8年1月分の実績)
 ・御周印帳販売数: 8冊
 ・御周印押印数: 33回

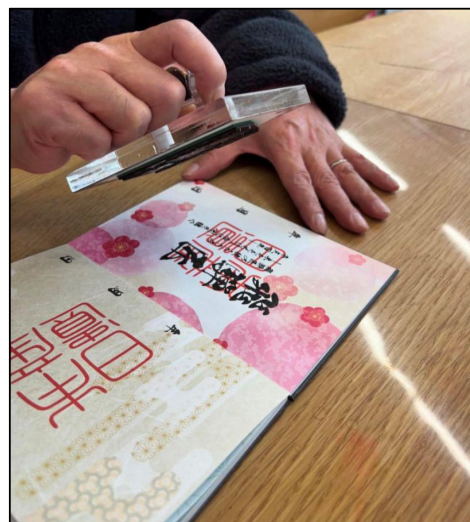
進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない


状況を示す写真や資料等



日本遺産パンフレット(市内小学生配布)



観光案内所に設置された日本遺産御周印帳と御周印

評価軸③-1 歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項		評価対象年度	令和7年度
項目		現在の状況	
まちな博物館外国語対応事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成30年度～令和16年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	外国人観光客の増加に伴い、外国人観光客が多く立ち寄る飛騨高山まちな博物館において、展示物の説明表示を多言語化するるとともに、外国語で展示内容や高山の歴史文化を説明できるガイドを養成する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
地域通訳案内士や全国通訳案内士に、まちな博物館主催「語り部養成講座」への参加を呼びかけ、参加いただいた。「語り部養成講座」への参加により、外国人へのガイドを行う際に必要な高山の歴史・文化についての具体的な知識や手法について習得することができ、ガイドの資質向上に寄与した。 <input type="checkbox"/> 令和7年度実績 ・「語り部養成講座」への地域通訳案内士、全国通訳案内士の参加:延べ2名 ・ボランティアガイド養成講座(2/27実施)への地域通訳案内士、全国通訳案内士の参加:2名			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
			
企業版ふるさと納税を活用して導入された 外国語解説用のスマートグラス			

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

	評価対象年度	令和7年度
--	--------	-------

項目	現在の状況
文化財の指定等	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容 未指定の文化財については、調査・研究によりその価値を適切に判断し、新規の指定等を含めて保存・活用に向けた取り組みを行っていく。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

令和7年度は、新たに1件が市の有形文化財(歴史資料)に指定された。
 県指定史跡の広瀬城跡では国指定に向けた取組として発掘調査を実施したほか、県指定史跡天然記念物の高山城跡では、保存・活用を進めるために石垣調査を実施した。
 令和7年度実績
 ・市指定:1件 有形文化財(歴史資料):大而宗龍関係資料
 また、令和6年度に策定した文化財保存活用地域計画について、令和7年7月18日に国の認定を受けた。
 令和7年度実績
 ・高山市文化財保存活用地域計画の認定

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
----------------	--------------------------

<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	
--	--

状況を示す写真や資料等



大而宗龍関係資料(令和8年3月30日市有形文化財(歴史資料)指定)

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

	評価対象年度	令和7年度
項目	現在の状況	
文化財の保護、周辺環境の保全等	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

計画に記載している内容 指定文化財については、適切な保存が図られるよう計画的に修理を実施する。文化財指定建造物のほとんどが木造であり、火災や地震に対し脆弱であるため、火災報知設備の設置や耐震対策を行う。

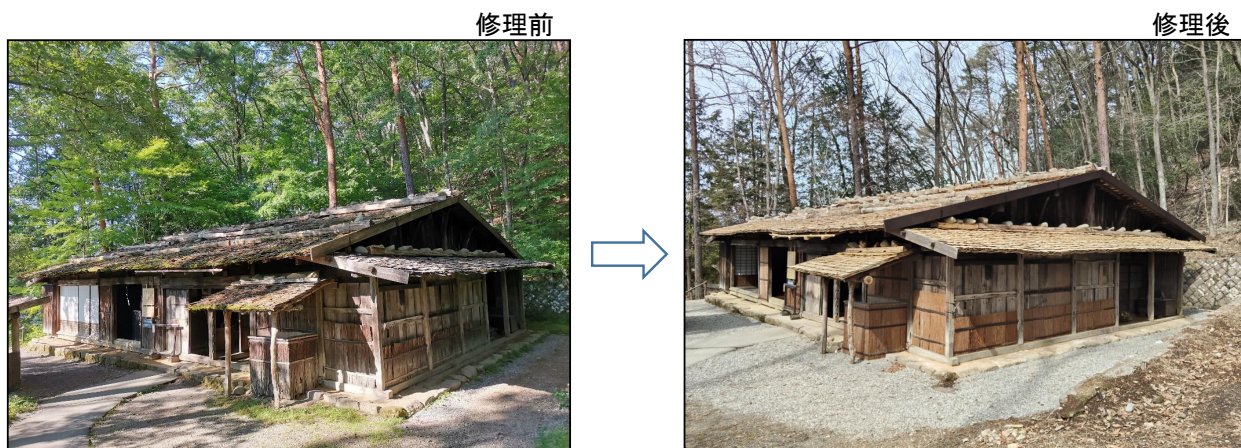
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

県指定重要文化財「旧中藪家」において修理(屋根葺替、部分修理)を実施することにより、適切な保存を図ることができた。工事中に市内の小学校を対象とした現場見学会を開催することで、貴重な建築技術を学ぶ場を提供し、文化財に対する関心を深めることができた。

令和7年度実績
 ・指定文化財の保存修理事業:1件 ※県指定:旧中藪家

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等



旧中藪家の修理(屋根葺替)



現場見学会の様子

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

		評価対象年度	令和7年度
項目		現在の状況	
文化財に関する普及・啓発の取組等		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

計画に記載している内容
 飛騨高山まちの博物館については、市の歴史民俗資料の保存活用の中心施設として郷土教育や伝統文化の継承の場としても活躍を図っていく。
 文化財に関する講座の開催や出前講座の開催等、文化財の保存及び活用に関する普及啓発を、様々な機会を使って実施する。
 町並み保存団体、屋台組をはじめとする文化財を保存・活用する各種団体については、活動への助成、情報提供、研修等を通じて組織の維持と活性化を支援していく。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

飛騨高山まちの博物館において、特別展を年4回開催した。来館者は、新型コロナウイルス感染症の拡大前よりも減少したが、趣向を凝らした展示で来館者に高山の歴史や文化に触れていただく機会を提供し、昨年度よりも増加した。

□令和7年度実績

・飛騨高山まちの博物館利用者数:229,043人 ※令和6年度222,699人

景観町並保存会や高山祭の屋台を保存する団体、地域の伝承芸能や文化財の保存団体に対して活動助成を行った。

□令和7年度実績

- ・景観町並保存会に対する補助金:20団体
- ・高山祭の祭礼復興に対する補助金:1団体
- ・無形文化財・無形民俗文化財保存会に対する補助金:5団体
- ・史跡保存会に対する補助金:14団体

高山市景観町並保存連合会の3つの専門部会では、例年、市と連携して事業を行っている。令和7年度は、子ども伝承部会で「ご朱印めぐり」を開催し、次代を担う児童を対象に、町並みの成り立ち、特徴などを普及啓発することができた。

□令和7年度実績

・「下町発見！ご朱印めぐり」令和7年10月18日(土)開催 参加者18人

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等



飛騨高山まちの博物館 令和7年度冬季特別展
 「陰影の妙味ー飛騨の夜を照らすあかりー」



「下町発見！ご朱印めぐり」の様子
 (令和7年10月18日)

評価軸⑤-1
効果・影響等に関する報道

報道等タイトル	年月日	掲載紙等
神輿拭き 晴れを待つ 日枝神社 氏子らが準備	令和7年4月14日	中日新聞
豪華屋台 そろい踏み 春の高山祭開幕	令和7年4月15日	中日新聞
豪華屋台 勢ぞろい	令和7年4月15日	岐阜新聞
蔵の中 からくり奉納	令和7年4月16日	岐阜新聞
蔵の中 からくり奉納 高山祭最終日は雨	令和7年4月16日	中日新聞
堂々閉幕 晴れ間呼ぶ	令和7年4月16日	中日新聞
高山市、景観重点区域で規制	令和7年6月18日	岐阜新聞
屋外広告物の基準 厳格化へ 高山市 中心部で原色使用禁止に	令和7年6月18日	中日新聞
高山祭 精巧さ・輝き・・・歓声絶えず	令和7年10月10日	朝日新聞
パズルアートで高山祭に”参加”	令和7年10月10日	岐阜新聞
片原町町内会がまちづくり協定	令和8年2月17日	中日新聞
高山市と片原町町内会 「まちづくり」で協定	令和8年2月19日	岐阜新聞

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

景観に関する意識が深まる中で、新たに景観に関する課題が生じてきたことを踏まえ、景観形成基準の見直しを行った。新たな基準について報道されることで、関係事業者だけではなく住民にも広く周知され、高山らしい美しい景観に対する意識の醸成に繋がった。
また、高山祭は春・秋ともに通常開催され、国内外から多くの観光客が訪れた。開催期間中は、観光客の入込数や伝統行事である祭の様子が報道されるなど、関心の高まりと誇りの醸成に繋がった。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input type="checkbox"/> 計画の進捗に影響あり <input checked="" type="checkbox"/> 計画の進捗に影響なし	

状況を示す写真や資料等



令和7年6月18日 岐阜新聞より



秋の高山祭

項目

観光客等の回遊性の向上

計画に記載している内容 道路の美装化や新たな歩行動線の確保、交通体系の見直しによる良好な歩行空間の創出により、市街地における観光客の回遊性の向上を図る。

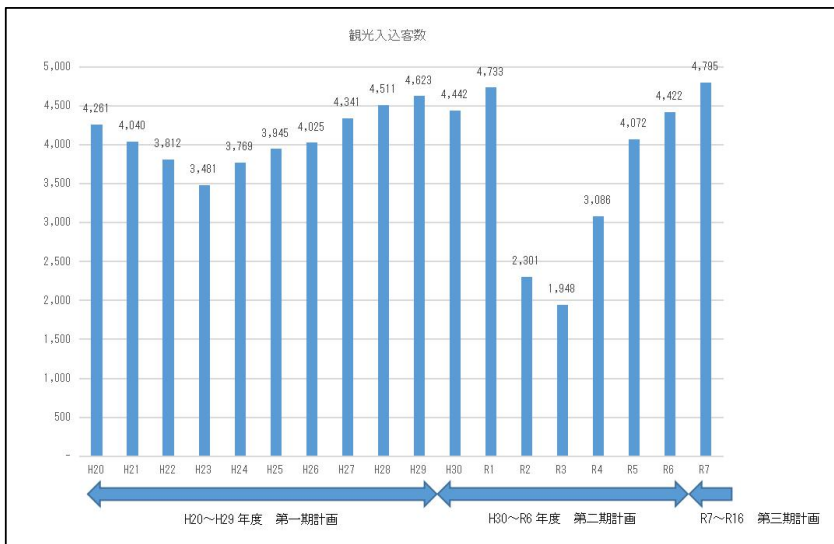
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付

観光客の総数は、新型コロナウイルス感染症の拡大前、第一期計画の後半の人数を上回り、過去最高となった。祭やGWといった繁忙期の観光入込客数も増加傾向にあり、まちなかには年間を通して多くの観光客が歩いている姿がみられた。AI人流量測定の結果からは、以前として上三之町(古い町並)の人流量が多いことに加え、大政等でも年間を通じて一定の人流が定着しており、市内で回遊性の向上がみられた。

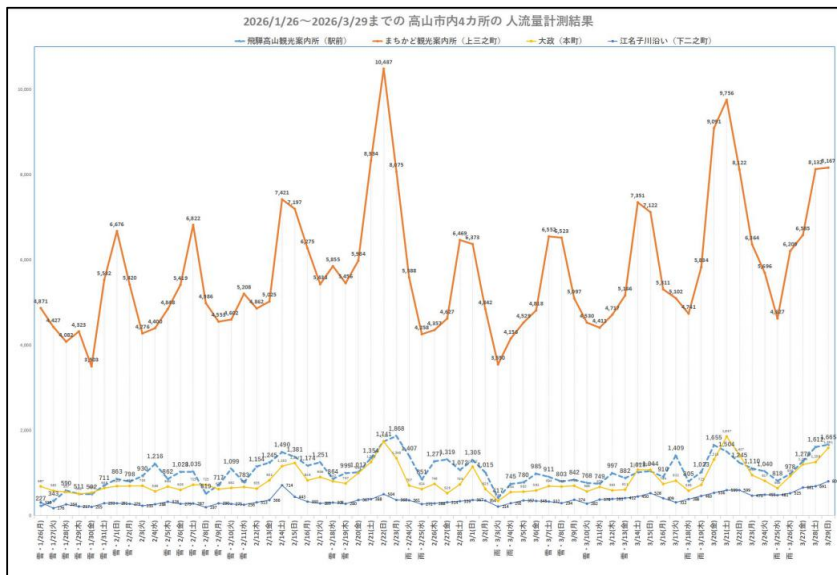
実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画の進捗に影響あり
- 計画の進捗に影響なし

状況を示す写真や資料等



観光入込客数の推移(H20~R7)



高山市内人流量計測結果

評価対象年度	令和7年度
<p>・法定協議会等におけるコメント</p>	
<p>コメントが出された会議等の名称: 高山市歴史的風致維持向上計画推進協議会</p>	
<p>会議等の開催日時: 書面開催(意見聴取期間: 令和8年4月27日～5月15日)</p>	
<p>(コメントの概要)</p> <p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、高山市の歴史的風致の維持向上を図るため、事業、計画の推進をお願いしたい。 <p>【景観計画との連携について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基準の見直しにより、よりはっきりした景観保全の取組みが可能となった。また、伝統的建造物群保存地区については、建物の仕様をはじめ看板の設置に至るまで、よりはっきりした規制が可能となり、元の町並みの姿にどれだけでも近づける努力がなされている。 <p>【文化財について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財等の地域資源は、地元住民の理解と支持があつてこそ歴史的風致の維持向上に結びついていくため、引き続き広報活動にも配慮してもらいたい。 ・文化財の修理に使用する木材(くれ板等)の確保が非常に困難になってきている。これは、担い手不足により、技術の継承が行われていないなど、早急に対応しなくてはならない課題である。 ・伝承芸能についても、少子高齢化の影響を受け若者への継承が困難になってきている。そのため、映像での保存や地元以外の人への継承を行うのも良いのではないか。 	
<p>(今後の対応方針)</p> <p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、関係者や関係課と連携し、事業や計画を推進する。 <p>【景観計画との連携について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新基準のさらなる周知と、適正な運用を行っていく。 <p>【文化財について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も積極的に文化財について報道に情報共有するなど、情報発信に努める。 ・文化財の修理だけではなく、修理に必要な材料の確保や担い手不足の解消を図るための対策について検討する。 ・活用できる補助金等の周知を徹底するほか、担い手不足の解消を図るための対策について検討する。 	